

あけましておめでとうございます。

今年、新学習指導要領が高等学校3年生まで実施され完成します。完成と同時に導入された新たな試みや概念の検証と次の指導要領の準備が始まります。経済教育でも検証と準備の一年になりそうです。そんな一年のはじめの月に、今月もネットワークの活動と情報をお届けします。

本号は、活動報告が多くあります。じっくりお読みいただければ幸いです。

◆ 目次

【1】最新活動報告

昨年12月の活動を報告します。

【2】イベントカレンダー

これからの活動の予定などを紹介します。

【3】授業のヒント

【1】最新活動報告

12月に実施された活動報告を掲載します。

<部会関係>

■京都部会 (No. 22)を開催しました。

日時：2013年12月6日(土) 19時00分～21時00分

場所：同志社大学良心館 4階第二共同研究室

参加者：7名

主な内容：篠原総一代表から、今まで各部会で報告されてきた教材を、教科書の単元ごとに整理してWebにアップする提案がなされた。続いて、14年度の「夏休み経済教室」では11月の東京部会の議論を踏まえて、内容については教科書のより丁寧な解説と好評な歴史シリーズに重点をおく方向で準備することになった。

さらに、金子幹夫先生(平塚農初声分校)が「経済教育学会」で報告された「高校生は経済学の用語をどのようにして理解していくのか」と埴枝里子先生(都立多摩高校)による法的思考を用いた「民事調停ゲーム」の紹介がなされ検討と意見交換がされた。

内容の詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/kyoto/kyoto022report.pdf>

■大阪部会 (No. 36)を開催しました。

日時：2013年12月14日(土)18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

出席者：10名。

主な内容：

(1)篠原代表から、最近の活動報告があり、3月22日(土)に予定されている年次大会では、3年連続で法教育と経済教育を取り上ることが報告され、社会の仕組みを学ぶには法的視点と経済的視点とをあわせて扱うことの必要と強調された。あわせて東京部会で検討された埴先生(都立多摩高校)の実践が紹介され、法と経済の融合の観点から検討がされた。

(2)篠原代表から、経済教育ネットワークの活動を通して集められた教材を、現場の先生に使いやすい形でホームページにアップすることを進めたいとの提案があった。また、新聞を活用した経済教育の仕方についても、情報を集め、紹介していきたいとの考えが表明された。

(3)山本雅康先生(奈良学園)から、中学校、高等学校での新聞記事を使った時事問題の教え方について、豊富な事例紹介があった。

(4)河原和之先生(立命館大学ほか)から、日本経済教育センターで加藤一誠先生(日本大学)とともに開発中の「地理と経済の融合教材～BRICs 諸国を中心に～」の一部が紹介された。今回はインドについて、総合的に考えながら学ぶことができる教材となっている。ブラジルや南アについても、同様の教材開発が進められているとのことである。

(5)李洪俊先生(長吉中学校)から「市場経済のしくみ」を学ぶ授業教材が紹介された。市場での価格の決め方について、購入したい人の希望価格、売りたい店の希望価格をもとに需要曲線・供給曲線を描かせ、多様な希望価格をもつ売り手、買い手がいたときの、市場での均衡価格の決め方が明らかになるように構成されている教材で、需給曲線のシフトや、市場価格の需給調整機能、供給曲線の背後にあるコスト構造なども扱える教材となっている。参加者からの関心は高く、教室で使う場合に生徒たちに難しい点や教え方に工夫を要する点などが議論になった。

(6)その他、2014年度夏の経済教室のプログラムについて議論された。

内容の詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka36report.pdf>

■東京部会 (No. 63)を開催しました。

日時：2013年12月17日(火)19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部2階会議室

参加者：13名

主な内容：

(1) 新井(小石川中等教育)より、配布資料に基づき、夏休み経済教室の報告がされた。篠原代表より、初任者ないし歴史・地理の教員のために入門コースを東京で1日かけて通常のコースと並行して行う案、歴史シリーズでさらに新しいテーマを取り上げる案、地理シリーズを始める案などが出され、今後検討していくことになった。あわせて年次大会の準備の状況、部会やWSについての報告があった。

(2) 篠原代表より「実践資料集」の編集について、教材や実践例をまとめるために、各人がこれまで発表した教材や実践例を整理して提出してほしいとの要請があった。また、大阪部会で検討された、山本先生(奈良学園)や李先生(長吉中)の教材が紹介された。

(3) 加藤先生(日本大学)より、河原先生(立命館大学)と共同で開発している「グローバル社会を生き抜くためにインドを知ろう」(日本経済教育センター)についての説明があり、この教材の使い方、改良の仕方などについて議論があった。

(4) 高橋勝也先生(桜修館中等教育)から、2007年中央大学経済学部の日本史の入試問題の旺文社の解答が誤りで、背景には出題のベースとなった『詳説日本史B』(山川出版社)の記述の誤りがあるのではないかとの指摘がされた。篠原代表からは、教科書で、特に経済学的に見て明らかに誤った記述があった場合にそれを正していく努力をすることが必要との発言があった。

(5) 実践報告が2件あった。1件目は三枝利多先生(目黒東山中)より、「3.11」に関連して防災の問題を取り上げて、自治体の財政の議論につなげる実践が紹介され検討された。

2件目は宮尾尊弘先生(国際大学)より、11月の東京部会で概略が説明された「公共財タダ乗り・繰り返しゲーム」の実践報告があった。実験の結果は、繰り返しの数が少ない場合は、全体的に非協力的で公共財の供給のための費用負担を免れようとする傾向が支配的であったが、繰り返しの数を多くした場合には、協力的で、公共財供給のために進んで費用を分担するという態度が見られた。この結果の解釈と教訓、今後の改良点などについて、活発な議論が行われた。

内容の詳細については以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/Tokyo063report.pdf>

<WSの活動報告を掲載します>

■経済教育ワークショップ【福井】を実施しました。

日時：2013年12月17日（火）14時00～16時30分

ところ：福井大学文京キャンパス

参加者：高校教員11名、福井大学院生・学部生20名、ほか3名の計34名

主な内容：

(1) 小巻泰之先生氏（日本大学）から「国民所得表の読み方」の講演があった。GDPが豊かさの代表的指標であり、その際名目GDPと実質GDPの区別をすることが大事であり、デフレの時には実質GDPが大きくなることが説明された。また、社会の動きを「モノ」と「カネ」で考えるという視点から、三面等価の原則や国際収支表の作られ方が解説された。また、教科書の説明が不足しているため現場教員からよく質問がでるマネーストック、基準貸付利率、信用創造、コール市場などを説明された。講演後、コール市場についての質疑応答があった。

(2) 休憩後、野間敏克先生（同志社大学）が「高校教科書で読み解くアベノミクス」の講演を行った。アベノミクスを理解・評価するためには、政経教科書のどの部分が使えるのか、どのような知識や考え方をプラスαすることが必要なのかという観点からの講演であった。

たとえばアベノミクスの第一の矢については、教科書の金融、金融政策の箇所だけでなく、経済の循環の図を念頭においておくとう理解しやすい。また、貨幣乗数という概念をプラスすれば、期待される効果と、それが思うように進まないことがさらに深く理解できると指摘された。第二の矢や第三の矢についても、教科書と関連づけながら解説された。講演後、国債の保有状況と将来についての質疑応答があった。

内容の詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/activity/ws/201312WS%20Fukui.pdf>

■経済教育ワークショップ【神奈川三浦】を実施しました。

日時：2013年12月21日（土）14時00分～16時30分

ところ：三浦市総合体育館「潮風アリーナ」会議室

参加者：19名

主な内容：

前半は、金子幹夫先生（平塚農業高校初声分校）から「高校生は経済学の用語をどのように理解してゆくのか」の実践報告があった。

報告は、お菓子袋の中身を参加の先生たちが交換し、交換のメリットを実感することからはじまった。金子先生によれば、生徒と教員は同じ言葉を見ても認識ギャップがあり、それを埋める試みが必要という。また、正しい認識を得るためには基盤が必要で、金子先生の場合は分業、大量生産、交換の三つに絞り込み、学習のたびに繰り返していると述べられた。

生徒は経済のことばを知っているけれど、組み立てられない現実をイメージマップで視された。お菓子の交換のような体験学習、分業のメリットを実感させる作業学習、こころをゆさぶる教材など多彩な教材や方法を用意して学習への動機を作り、「株式学習ゲーム」などをやってゆく。ここまでやるとやっとなある度正しい概念ができてくるとされた。さらに「レモンの絵本」を読んで、市場に関するマップをもう一回書かせ、比較すると明らかに生徒の認識が深化していることがわかると結論付けた。

実践報告のあと、加藤一誠先生（日本大学）からコメントと、参加者との質疑、討論が行われた。

後半は、加藤一誠先生の講演「経済学から考えるキャリア教育」が行われた。これは加藤先生が開発された教材「幸せの人生を経済しよう」（日本経済研究センター）をもとに、進学、就職、結婚・家庭のそれぞれのライフステージでのコストと収益を考えることがキャリア形成において大切との話をされた。

講演のあと、質疑と討論が行われた。

エコノミストと現場教員のコラボレーションを目指したWSであったが、お二人の先生のユニークな話に加えて、参加の先生方の熱心な質疑や討論が行われ熱気こもる会となった。

内容の詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/activity/ws/201312WS%20Miura%20Kanagawa.pdf>

【 2 】 イベントカレンダー

これからの予定を開催順に掲載します。

<定例部会関係>

■東京部会（No. 64）を開催します

日時：2014年1月21日 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部 本館2階 中2会議室

内容、参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo064flyerR.pdf>

■札幌部会（No. 9）を開催します

日時：2014年2月1日（土） 14時30分～17時00分

場所：キャリアバンクセミナールーム

札幌市中央区北5条西5丁目7番地

sapporo55 5階（JR札幌駅紀伊国屋のビル）

内容、参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo009flyer.pdf>

■大阪部会 (No. 37)を開催します

日時：2014年2月15日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

大阪市北区梅田 1-12-17 梅田スクエアビルディング 17階

内容、参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka37flyerR.pdf>

■京都部会 (No. 23)を開催します

日時：2014年2月21日(金) 19時00分～21時00分

場所：同志社大学 良心館4階第二共同研究室

内容、参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/kyoto/kyoto023flyer.pdf>

<イベント関係>

■ワークショップ【川口】を開催します

日時：2014年2月15日(土) 14時00分～16時30分

場所：埼玉県川口市立里中学校

内容、参加方法は以下のHPをご覧ください。

http://www.econ-edu.net/announcement/WS_Sympo/WS_Kawaguchi20140215.pdf

■シンポジウムを開催します。

「法教育と経済教育の対話(第三回)」のシンポジウムを行います。

日時：2014年3月22日 13:00～17:00

場所：同志社大学

内容、出席者が決まり次第、参加方法などをHPに掲載します。

■来年「夏の経済教室」の日程と会場が決まりました。(再掲)

名古屋会場 2014年8月4日(月) 中学向け ウィンクあいち

2014年8月5日(火) 高校向け ウィンクあいち

大阪会場 2014年8月7日(木) 中学向け 国民会館

2014年8月8日(金) 高校向け 国民会館

東京会場 2014年8月14日(木) 15日(金) 高校向け 東証ホール

2014年8月18日(月) 19日(火) 中学向け 東証ホール

3会場とも本年と同じ場所です。

内容は、決まり次第お伝えしてゆきます。また、ご要望などありましたらお寄せください。

【 3 】授業のヒント

■イメージマップを作る

新年なので、それにふさわしいヒントです。

イメージマップとは、自分の頭のなかにあるイメージを図や絵にしたものです。

イメージマップには狭義のものと広義のもの二つがあるとされています。狭義では文字通り「自分のイメージする地図」なので、自分の思い描く世界地図や自分が子どもの頃の遊び場の地図などがそれにあたります。広義では「自分のイメージする社会像」を意味します。だから、三浦のWSで金子先生が紹介された、生徒に書かせた「経済」に関する言葉をつないだイメージマップは後者の広い意味でのイメージマップになります。

新年にふさわしいテーマでは、たとえば「日本経済の理想のすがた」とか「私の理想とする日本の社会」「日本ができる国際貢献」などのイメージマップを作らせるとよいと思います。

教室でイメージマップを作らせる場合は、完成したらとなりと比較したり、グループで見せ合ったりして、自分のイメージと周りのイメージの違いを自覚することが有効です。そこから、自分が足りないところや、みんなの共通にもつイメージなどを確認するようにすると良いでしょう。授業前と授業後のイメージマップの比較をすると、どれだけ認識や世界観がひろがったのかを確認することもできます。

イメージマップは生徒に作らせる前に、先生方自身が作ってみることを勧めます。そうすることで、生徒との認識の違いや自分自身の世界観のある種のゆがみなどが自覚できるかもしれません。でも、それってちょっと怖いですよ。 (新井)

【 4 】編集後記 (みみずのたはこと)

年末の新聞に、夏の経済教室で登場願ったことがある松井彰彦先生（東京大学）が登場して、二宮金次郎の「道徳なき経済は犯罪である。経済なき道徳は寝言である」という言葉を紹介していました。この言葉なかなか含蓄が深く感心してしまいました。

でも本当にこんなモダンな言い方をしたのか疑問に思い、出典を調べたところ

『二宮翁夜話』であるらしいことまではわかりました。でも、まだ本当かどうか確認していません。この種の言葉は、どこかで一人歩きをして違う文脈で用いられることもありますから、すこし時間をかけて調べるのも面白いかと考えています。時間コストが安い非常勤生活者の特権かもしれません。 (新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお
手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

=====



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◆